

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	アルファクリーナー(詰替用)
製品コード	3075
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	篠原智光
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	自動販売機の外装・スチール機器・プラスチック製品・ビニールレザーの洗浄【濃縮品・業務用】
作成日	2005年2月3日
改正日	2016年3月8日
整理番号	3075-08

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
生殖細胞変異原性	区分 1 (1A及び1B)
生殖毒性	区分 1 (1A及び1B)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分 2
水生環境有害性 (急性)	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体
皮膚刺激
重篤な眼の損傷
遺伝性疾患のおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11. 08

長期にわたる、または反復暴露による肝臓の障害のおそれ
水生生物に有害

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
陰イオン系界面活性剤	1~5	非公開	非公開
非イオン系界面活性剤	1未満	非公開	非公開
両性界面活性剤	1未満	非公開	非公開
1-(2-メキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール	1~5	34590-94-8	(2)-426
メチル-2,4-ペンタンジオール	1~5	107-41-5	(2)-240
エタノール	1~5	64-17-5	(2)-202
1-プロパノール	1未満	71-23-8	(2)-207
イソプロピルアルコール	1未満	67-63-0	(2)-207

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
61	エタノール	1~5%
494	プロピルアルコール	1%未満
593	2-メチル-2,4-ペンタンジオール	1~5%
601	1-(2-メキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール	1~5%

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有するが、5%以下。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・衣服等に付着した場合は、脱いで皮膚の付着した部分を十分に洗い流す。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

- ・ 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・ 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・ 消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・ 消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・ 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・ アルカリ性の製品なので、必要があれば酸(希塩酸、希硫酸等)で中和する。
- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・ 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- ・ 火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ 製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・酸と一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。
- ・屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気の高発生量の多い場所には局所排気装置を設ける。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
1-(2-メトキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール	-	US (ACGIH)/2007 100ppm 8時間/TWA 皮膚。 US (ACGIH)/2007 150ppm 15分/STEL 皮膚
メチル-2,4-ヘキサンジオール	-	ACGIH(2006) TLV-STEL 25ppm(上限値)
エタノール	-	ACGIH(2006) TLV-TWA 100ppm 1880mg/m3
イソプロピルアルコール	200ppm	日本産業衛生学会(2005年度版) 400ppm 980mg/m3 ACGIH(2005年度版) TLV-TWA 200ppm TLV-STEL 400ppm

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

皮膚及び身体の保護具

- ・保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 青色液体
臭い	: 香料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 10.5
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: 62℃
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.01
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

避けるべき条件

- ・加熱・熱源・裸火
- ・強酸化剤との接触を避ける。

混触危険性物質

- ・強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)

危険有害な分解生成物

- ・特になし

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11. 08

その他

- ・ 特になし

1 1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

- ・ 陰イオン系界面活性剤
 - 《急性毒性》
経口：LD50>2000ml/kg(ラット/OECD 401)
 - 《皮膚腐食性/刺激性》
刺激性あり(OECD 404)
 - 《眼に対する重篤な損傷/刺激性》
重篤な眼の損傷(CESIO)
 - 《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
皮膚感作性なし(Magnusson/Kligman)
 - 《発がん性》 データなし
 - 《生殖細胞変異原性》
陰性(In vivo小核試験)
 - 《生殖毒性》 データなし
 - 《標的臓器/全身毒性(単回暴露)》
データなし
 - 《標的臓器/全身毒性(反復暴露)》
データなし
 - 《吸引性呼吸器有害性》
製品の動粘性率(40°C)は、20.5mm²/S以下にはならないため区分外
- ・ 非イオン系界面活性剤
 - 《急性毒性》
経口：LD50(経口) ラット 18000mg/kg
経皮：LD50(経皮) 2000mg/kg
 - 吸入(蒸気)データなし
吸入(粉じん・ミスト):データなし
 - 《皮膚腐食性/刺激性》
区分3に分類される
 - 《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》
区分2Aに分類される
- ・ 両性界面活性剤
 - 《急性毒性》
経口：LD50 >2000mg/kg(ラット/CSIO)
 - 《皮膚腐食性/刺激性》
刺激性あり(ウサギ/GESIO)
 - 《眼に対する重篤な損傷性/刺激性》
重篤な眼球損傷のリスクあり(ウサギ/GESIO)
 - 《呼吸器感作性又は皮膚感作性》
皮膚感作性なし(モルモット/OECD 406)
 - 《生殖細胞変異原性》
変異原生なし(Ames Test)
 - 《発がん性》
データなし。
 - 《生殖毒性》
データなし。
 - 標的臓器/全身毒性(単回暴露)
データなし。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11. 08

標的臓器／全身毒性(反復暴露)

データなし。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし。

- ・ 1-(2-メトキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール

《急性毒性》

経口:LD50 ラット 5180mg/kg

経皮:LD50 ウサギ 9500mg/kg

吸入:LC50 ラット 500ppm以上 7時間

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

区分3:蒸気に暴露すると、目、鼻、またはのどに炎症が生ずるおそれがある。

- ・ メチル-2,4-ヘンタンジオール

急性毒性

経口:ラットLD50値:4470mg/kg(SIDS, 2001、DFGOT vol.16, 2001)、4700mg/kg(SIDS, 2001、DFGOT vol.16, 2001)、3700mg/kg(SIDS, 2001、DFGOT vol.16, 2001、PATTY 4th, 1994)、4760mg/kg(SIDS, 2001)、3680mg/kg(SIDS, 2001)、4790mg/kg(ACGIH 7th, 2001、PATTY 4th, 1994)、4200mg/kg(PATTY 4th, 1994)とのデータがあるが、SIDS(2001)のラットを用いたOECD 402準拠GLP試験においてLD50値:>2000mg/kgであったとの記述から、2000mg/kg以下では死亡は認められないと判断し、区分外とした。

経皮:ウサギLD50値:>5000mg/kg(SIDS, 2001、DFGOT vol.16, 2001)、>1840mg/kg(SIDS, 2001)、12300mg/kg(SIDS, 2001、ACGIH 7th, 2001、DFGOT vol.16, 2001、PATTY 4th, 1994)、>8680mg/kg(SIDS, 2001)、7900mg/kg(SIDS, 2001、DFGOT vol.16, 2001、PATTY 4th, 1994)および>10000mg/kg(DFGOT vol.16, 2001)、ならびにラットLD50値:>2000mg/kg(OECD 402準拠GLP試験、SIDS, 2001)に基づき、ラットでは2000mg/kg以下では死亡は認められないと判断し、区分外とした。

《皮膚腐食性／刺激性》

SIDS(2001)およびDFGOT(vol.16, 2001)のウサギを用いた皮膚刺激性試験において4時間暴露で刺激性が認められなかったとの記述から、区分外とした。

眼損傷性／眼刺激性

SIDS(2001)に記載されたウサギを用いた眼刺激性試験(OECDガイドライン405準拠GLP試験)では刺激性の基準に適應する眼の変化は認められなかったが、SIDS(2001)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT(vol.16, 2001)、PATTY(4th, 1994)のウサギの眼に適用した試験において強い刺激性が認められたとの記述、ならびにSIDS(2001)に記載されたウサギを用いたDraize試験では眼の変化が7日以内に完全に回復しなかったことから、区分2Aとした。

《呼吸器感作性／皮膚感作性》

呼吸器:データなし

皮膚:SIDS(2001)のモルモットを用いたBuehler testにおいて陽性反応は認められなかったとの記述から、区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

in vitro試験で陰性のデータしかないため分類できない。

《発ガン性》

データなし

生殖毒性

SIDS(2001)のラットを用いた経口投与による催奇形性試験において母動物に一般毒性が認められる用量でも明確な生殖毒性は認められなかったとの記述から、区分外とした

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

SIDS(2001)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT(vol.16, 2001)およびPATTY(4th, 1994)のヒト暴露例で気道刺激性が認められたとの記述、ならびにSIDS(2001)、ACGIH(7th, 2001)のラットまたはマウスを用いた経口投与試験において麻酔作用を示唆する症状が認められたとの記述から、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性》(慢性)

SIDS(2001)、DFGOT(vol.16, 2001)、PATTY(4th, 1994)のラットを用いた経口投与試験またはウサギを用いた経皮投与試験において区分2のガイダンス値範囲を超える用量でも重大な毒性作用が認められなかったとの記述から、区分外とした。また、SIDS(2001)およびDFGOT(vol.16, 2001)にはヒトを対象とした経口投与試験において毒性症状は認められなかったとの記述がある。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11. 08

《吸引性呼吸器有害性》
データなし

・ 1/1-ル

《急性毒性》

経口:「ラット経口LD50 = 6.2 - 17.8 g/kg bw. > 5 g/kg bw」(DFGOT vol.7 (1996, p148))および(Patty (5th, 2005, p385))の記載により区分外とした。

経皮:データなし。

吸入(ガス):GHSの定義における液体である。

吸入(蒸気):「ラット吸入LC50=20000ppm/10H (RTECS(2004))は、20°Cでのエタノール飽和蒸気圧濃度56580ppm以下であるので蒸気による吸入試験と考えられる。さらに、20000ppm/10H * $\sqrt{10}/\sqrt{4}$ = 31600ppm/4h > 12500 ppm (気体 5000 ppm (区分4) * 2.5)に基づいて区分外とした。

吸入(粉じん、ミスト):「ラット吸入LC50 (4h) = about 63000ml/m³=63000ppm (DFGの定義による。DFGOT (1996)) は、20°Cでのエタノール飽和蒸気圧濃度56580ppmを超えているのでミストによる吸入試験として分類した。さらに、63000ppm*1.88mg/m³=118mg/L > 12.5 mg/L (ミスト 5mg/L (ミスト区分4) * 2.5)に基づいて区分外とした。

《皮膚腐食性/刺激性》

「OECD TG404 および American guidelinesに従った試験により、刺激性でない」(DFGOT (1996))の記載により区分外とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

「OECD TG405 および Draize testに従った試験により、moderateと分類されている」(DFGOT (1996))こと、また「ヒトで角膜上皮の傷害、結膜充血は1、2日間で回復する」(ACGIH (2001))の記載に基づき、区分2A-2Bとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

皮膚感作性:「ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある」(DFGOT (1996))の記載が存在するが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性が見られる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性は見られないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」(ACGIH (2001)、DFGOT (1996)、IUCLID (2000))の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。

呼吸感作性:「ヒトでは、喘息患者のアルコール吸引による喘息誘発等の症例報告があるが、その起源はアレルギー反応とはみなされていない」(DFGOT (1996))。しかし、それ以外のヒトでの吸入感作性に関する知見、動物の吸入感作性試験データが見られないのでデータ不足により分類できないとした。

《生殖細胞変異原性》

ラットおよびマウスにおける優性致死の報告およびマウス生殖細胞における異数性誘発の報告(DFG (1999), IARC (1988))に基づき、区分1Bとした。

《発がん性》

IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類している。これは、アルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づいて、アルコール性飲料と食道系および肝臓のがんの因果関係を認めたものである(DFGOT(1996))。

他方、ACGIHは、主として作業環境での有害性因子としてエタノールをA4(ヒト発がん性に分類できない物質、ACGIH (1996))に分類している。ここでは、嗜好品としてのアルコール性飲料の有害性を評価・分類するのではなく、エタノールの有害性を評価すると考え、ACGIHの分類A4および技術指針に従い、区分外とした。

《生殖毒性》

アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている(DFGOT (1996))ので区分1Aとした。

《標的臓器/全身毒性(単回暴露)》

「ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ(ICSC (2000))、急性中毒の場合は死に至ることがある」(DFGOT (1996))の記載および「ヒトで5000ppm (9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす(ACGIH (2001))との記載に基づき区分3(気道刺激性、麻醉性)とした。

《標的臓器/全身毒性(反復暴露)》

「ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る」(DFGOT (1996))の記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、「アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)」(HSDB、(2003))の記載に基づき区分2(神経)とした。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11. 08

《吸引性呼吸器有害性》
データなし。

・ 1-プロパノール

《急性毒性》

経口：ラットLD50値：1900mg/kg(ACGIH,2004)、1870mg/kg(PATY 4th,1994,EHC 102,1990)、5400mg/kg(PATY 4th,1994)、6500mg/kg(PATY 4th,1994,EHC 102,1990)に基づき、計算を適用した。計算値は2695mg/kgであったことから区分5とした。

経皮：ウサギLD50値：6700mg/kg(PATY 4th,1994,EHC 102,2004)、4046mg/kg(ACGIH,2004)、4000mg/kg(PATY 4th,1994)および4050mg/kg(EHC 102,1990)、に基づき、計算を適用した。計算値は4031mg/kgであったことから区分5とした。

吸入(ガス)：GHS定義による液体である。

吸入(蒸気)PATY(4th,1994)に2000ppmの1時間暴露(4時間換算値：24.531mg/L)でラットに死亡が認められなかったとの記述、EHC102(1990)およびPATY(4th,1994)に4000ppm(9.84mg/L)の4時間暴露でラット6例中2例が死亡したとの記述があるが、LC50値は示されていないことから、データ不足のため分類できないとした。

吸入(粉じん・ミスト)：データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

PATY(4th,1994)のウサギの皮膚を極めて軽度に刺激したとの記述から、区分3の可能性があるが、EHC 102(1990)のヒトの皮膚に適用した試験において12例中で9例でerythemaが認められたとの記述から、区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ACGIH(2004)、PATY(4th,1994)のウサギの眼に適用した試験において重度の結膜炎、虹彩炎、角膜混濁および潰瘍形成が認められたとの記述から、区分2Aとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：データなし

皮膚感作性EHC 102(1990)のパッチテストでアレルギー性反応が認められた1症例の記述があるが、他にデータはなく、データ不足のため分類できないとした。

《発がん性》

ACGIH(2004)でA3に分類されていることから区分2とした。

《生殖細胞変異原性》

in vitro試験のデータしかないため分類できない。

《生殖毒性》

ACGIH(2004)およびPATY(4th,1994)の妊娠中のラットに吸入暴露した試験において母動物に一般毒性が認められる用量で奇形の増加が認められたとの記述、ならびにACGIH(2004)、PATY(4th,1994)、EHC102(1990)の雄雌ラットを用いた吸入暴露試験において一般毒性が認められる用量で雄の生殖能低下および子の奇形(crooked tail)増加が認められたとの記述から、区分2とした。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

ACGIH(2004)、PATY(4th,1994)、EHC102(1990)のラット、マウスまたはウサギを用いた吸入暴露または経口投与試験において麻酔作用が認められたとの記述、ならびにEHC102(1990)のマウスを用いた吸入暴露試験において気道刺激性を示唆する呼吸数の減少が認められたとの記述から、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

データ不足のため分類できない。

《吸引性呼吸器有害性》

3以上13を超えない炭素原子で構成された一級のノルマルアルコールであることから区分2とした。

整理番号	アルファクリナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11. 08

・ イソプロピルアルコール

《急性毒性》

経口：経口ラットD50 = 5280 mg/kg(EHC(1990)、SIDS(1997)、5500 mg/kg ((EHC(1990)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999))、5480 mg/kg(EHC(1990)、PATTY(1994))、4710 mg/kg(EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)、1870 mg/kg(CERIハザードデータ集(1999))があり、それらの統計計算で求めた毒性値は3437 mg/kgとなることから、区分5とされた。

経皮：ウサギLD50 = 12870 mg/kg(EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999))および4059mg/kg(CERIハザードデータ集(1999))があり、これらの低い方からの値から、区分5とされた。

吸入(蒸気)ラットLC50(4時間蒸気暴露) = 72600 mg/m³(29512ppm)、EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)および29620ppm(72865 mg/m³)(CERIハザードデータ集(1999))に基づき、いずれもミストを含まない蒸気での暴露におけるppm濃度基準値の区分5の範囲をこえていることから、区分外とされた。

《皮膚腐食性/刺激性》

EHC 103(1990)、PATTY(4th, 1994)、ECETOC TR66(1995)、CERIハザードデータ集(1999)のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし、または軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103(1990)のヒトでのボランティアおよびアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、区分外とされた。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

EHC(1990)、SIDS(1997)、PATTY(1994)、ECETO TR(1992)CERIハザードデータ集(1999)のウサギでの眼精刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分2A-2Bとされた。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：データなし

皮膚感作性SIDS(1997)のモルモットのビューラー法による皮膚感作性試験では陰性であった。一方、EHC(1990)の皮膚炎発症例でIPAのパッチテスト陽性例には、低分子の1級または2級アルコール、プロピレンオキサイドにも陽性を示しており、IPAが原因物質か否か明確でないことから、データ不足により分類できないとされた。

《発がん性》

IARC(Access on Oct 2005)でグループ3、ACGIH(2003)でA4に分類されていることから、区分外とされた。

《生殖細胞変異原性》

SIDS(1997)のin vivoでのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性であることから区分外とされた。

《生殖毒性》

EHC(1990)、IARC(2005)、PATTY(1994)のラットでの飲水投与による2世代養殖試験では、養殖能および出生子の発育に影響なかった。一方、EHC(1990)、SIDS(1997)、ACGIH(2003)のラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた記述から、区分2とされた。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

PATTY(1994)、ACGIH(2003)のラットでの吸入暴露による活動性の低下があるとの記述、およびACGIH(2003)、CERIハザードデータ集(1999)のヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経系、腎臓および全身毒性と判断し、区分1とされた。また、ACGIH(2003)のヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性があると判断し、区分3とされた。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

EHC(1990)のラットでの86日間または4ヶ月間吸入暴露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であると判断し、区分2とされた。なお、区分2のガイダンス値を超える投与量では、腎臓への影響および麻酔作用が認められている。

《吸引性呼吸器有害性》

ヒトに関する情報はないが、EHC(1990)、PATTY(1994)のラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、吸引性呼吸器有害性があると判断し、区分2とされた。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

12. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

- ・ 陰イオン系界面活性剤
 - 《生態毒性》
 - 魚毒性:LC50 1-5mg/L(96h/zebra fish/OECD 203)
 - バクテリア毒性:EC50>1000mg/L(*Psoundomonas putida*/DIN38412T.8)
 - 《残留性/分解性》
 - 生分解性>90%(15d/OECD 302B) 89%(21d/OECD 301E) 78%(28d/OECD 301B)
 - 《生体蓄積性》 データなし
 - 《土壌の移動性》 データなし
 - 《その他》 DOC:322mg/g,COD;1510mg/g
- ・ 非イオン系界面活性剤
 - 《水生環境有害性》(急性)
 - 生態毒性 LC50(96H) 魚類(ヒメダカ) =6.1mg/L(ポリオキシエチレンアルキルエーテル)
- ・ 両性界面活性剤
 - 《水生環境有害性》(急性)
 - 情報なし
 - 《水生環境有害性》(慢性)
 - 情報なし
- ・ メル-2,4-ペンタンジオール
 - 水生環境有害性(急性)
 - 魚類(ヒメダカ)の96時間LC50>100mg/L(環境省生態影響試験、1997)から、区分外とした。
 - 《水生環境有害性》(慢性)
 - 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10⁶mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
- ・ イタノール
 - 《水生環境有害性(急性)》
 - 甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50=5463.9mg/L(ECETOC TR91、2003)から、区分外とした。
 - 《水生環境有害性(慢性)》
 - 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10⁶mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
- ・ 1-ブドウノール
 - 《水生環境有害性》(急性)
 - 甲殻類(ミジンコ)の48時間LC50=3025mg/L(EHC102,1990)から区分外とした。
 - 《水性環境有害性》(慢性)
 - 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10⁶mg/L(PHYSPROP Database,2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
- ・ イソプロピルアルコール
 - 《水生環境有害性》(急性)
 - 魚類(ヒメダカ)の96時間LC50>100mg/L(環境省生態影響試験、1997)から、区分外とされた。

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

《水性環境有害性》(慢性)
 離水溶性でなく(水溶解度 = 1.00 × 106mg/ L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とされた。
 残留性・分解性 分解性 BOD5: 0.16O₂/g IPA(7%)
 BOD20: 1.68O₂/g IPA(70%) 理論的酸素要求量: 2.4gO₂/gIPA
 蓄積性: ない
 魚毒性
 LC50 fathead minnow 11130mg/L(96h) 注)LC50: 50%致死濃度

オゾン層への有害性 : データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制:

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

容器等級 : 該当しない

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制:

容器イエローラベル

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・「火気注意」
- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

1 5. 適用法令

火薬類取締法:

対象外

高圧ガス保安法:

対象外

消防法: ()内は、指定数量

非危険物(指定可燃物 可燃性液体類)

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法):

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法:

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

整理番号	アルファクリーナー(詰替用)	作成日	2005年2月3日
3075-08	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年3月8日

Ver. 11.08

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則) :

非該当 該当成分は含有するが、5%以下のため非該当(詳細 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物) :

引火性の物

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法) :

非該当 該当物質は含有するが、1%未満。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16. その他の情報(参考文献等)

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA(日本オートケミカル工業会) 編集: 化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。